

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第72号
令和4年3月3日

令和3年度「ふくしま青少年育成セミナー」実施状況

令和3年度「ふくしま青少年育成セミナー」は、コロナ禍の中、日程の延期やまん延防止適用による中止があり、また開催したセミナーでも参加人数を制限させていただき実施いたしましたが、講師の先生方をはじめ、皆様の御協力をいただき、開催することができました。

思春期から青年期にかけての子どもたちが、自立に向け、心身ともに健やかに成長することを願い、今年度は「若者の自立支援」「青少年教育」「心の健康」「情報化社会」の四つのテーマに基づいて企画し開催（「心の健康」「情報化社会」は中止）しました。講師の皆様の卓越した知見や洞察力、観察力などを踏まえたお話により、参加者を魅了してやまない実り多い育成セミナーを、ご提供することができたと思います。（アンケートの結果、2回とも参加者の満足度は85%を超えています。）

次年度も皆様の御要望を踏まえながら時代の要請に応じた育成セミナーを企画・実施していきたいと思しますので御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

《第1回》【若者の自立支援】
令和3年6月19日（土）

演 題 「子ども・若者の育ちを支えるために」
～不登校・ひきこもりの現状と課題～

講 師 NPO 法人「ビーンズふくしま」
理事長 若月ちよ氏



参加者の声

【第1回 若月 ちよ先生】

- 子どもたちの気持ちをよく聞くことの大切さを確認できました。
- 不登校、ひきこもりの現状と、その解決に向けた大人のかかわり、地域の在り方について示唆をいただいた。また、自分の考えを見直すことができました。
- 子どもの気持ちを聴き、自己肯定感を育む事ができる家庭づくりが大切だと思いました。親の意見を押しつせず、子どもが気持ちを言える家族でありたいと思いました。
- 現状についての理解を深めることができた。「加点方式の関わり」により自己肯定感を高める必要性が理解できた。子どもの見方の改善に努めたいと考えることができた。
- 今回のセミナーは、ひきこもりだけでなく子育てにも役立つと思いました。子どもを地域で育てるためには、まず大人の私たちが地域の人と関わるよう心がけようと思いました。

《第2回》【青少年教育】
令和3年11月27日（土）

演 題 「福島県の教育の現状と課題」
～震災後10年の実践から言えること～

講 師 福島大学 学長 三浦 浩喜 氏



【第2回 三浦 浩喜先生】

参加者の声

- 生徒の現状が理解でき、これから求められていることは何か、明確に示されていた。
- 学生の可能性を引き出すポイントを提案されていて、活気ある学生の事例が見られました。
- 東北復興祭等で貴重な経験をし、成長している子どもたちがいることを知り感心しました。また、いろいろな交流、活動等を体験することはいいことだと思いました。
- 高校生のいきいきとした姿を見ることができて良かった。これからの学校での教育をどのように行うべきか考える機会となりました。
- 今回の話を聞いて世界が広がったと思う。今後の子どもの成長を考えていきたい。

※ 福島県にまん延防止が適用され、感染拡大が認められたため中止になりました。

《第3回》 【心の健康】令和4年1月30日（日）（予定）

講 師 福島県立医科大学 主任教授 大平 哲也 氏

《第4回》 【情報化社会】令和4年2月26日（土）（予定）

講 師 医療創生大学 心理学部教授 中尾 剛 氏

=令和3年度 相談業務とひきこもりについて=

～福島県ひきこもり相談支援センターの相談状況～

今年度、これまでの福島県青少年総合相談センターと福島県ひきこもり支援センターを統合し、新たに「福島県ひきこもり相談支援センター」に移行しました。相談対象を不登校も含むひきこもりに特化し、一次相談窓口としての役割を担っています。

青少年を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化し、より多様化、複合化、深刻化を増しています。これらの課題に対する支援のあり方にも変化や工夫が求められ、当センターもできる限り柔軟な対応に努めました。また、困難を抱えているご本人やご家族が求める支援とは何かを模索しつつ、厳しい状況に置かれている人々の不安に寄り添い続ける相談支援に努めています。

以下は、今年度の当センターの相談状況についてまとめたものです。

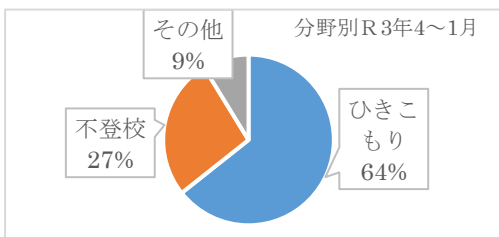
1 令和3年度相談件数について

令和3年～令和4年1月末現在

	延件数	実件数
ひきこもり	1102	219
不登校	454	109
その他	157	53
累計	1713	381

※その他：発達障害や精神疾患等

【分野別（実件数）】

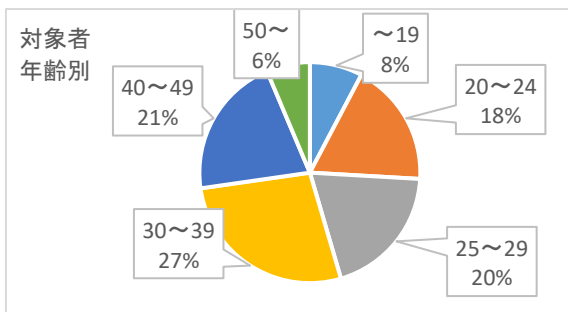


2 対象者について

(1) 年齢別

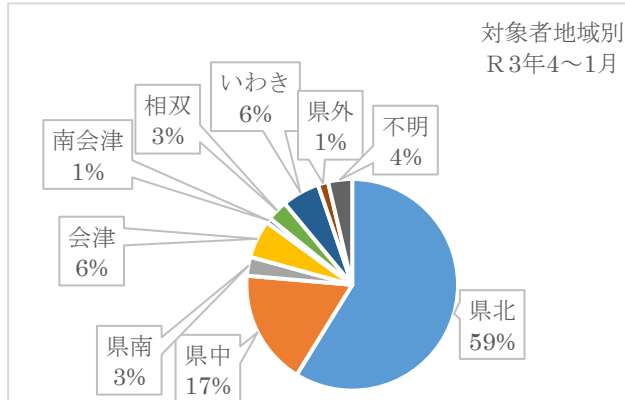
令和4年1月末現在

年齢	～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～	計
人数	137	50	35	85	52	22	381



対象者は、20代が約4割を占め、30代が3割、40代が2割である。

(2) 地域別

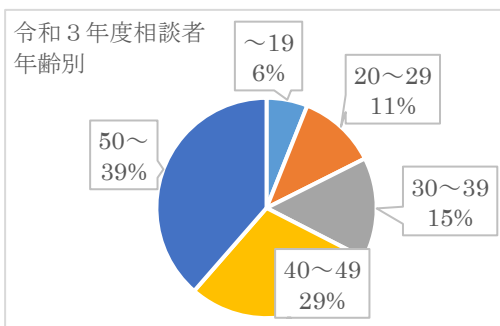


3 相談者について

(1) 年齢別

令和3年～令和4年1月末現在

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～	計
人数	23	44	57	110	147	381



40代・50代は、本人からの相談もあるが、親や兄弟・姉妹からの相談が多い。

令和3年度の諸事業を振り返って

新型コロナウイルスの影響下、令和3年度事業のまとめの時期となりました。県民会議では、青少年の自立に向けた営みの充実を図るために令和3年度重点推進事項5項目について、家庭・学校・地域社会や関係機関、諸団体等との連携のもと、以下の各事業に積極的に取り組んできました。

1 「大人が変われば、子どもも変わる県民運動」の推進

- ◇「大人への応援講座」（県内5市町で8講座を開設。）11月に講師会議を開催し、講師の皆さんによる情報交換を行いました。
- ◇「ふくしま青少年育成セミナー」は年4回の実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、6月・11月の計2回、講演会を行いました。

2 「地域の子どもは、地域で見守り育てる運動」の推進

- ◇「家庭の日」作文、絵画・ポスター作品募集
1, 748作品（作文1, 493点、絵画221点・ポスター34点）の応募がありました。
- ◇「少年の主張福島県大会」
9月24日（金）、第43回大会を福島県青少年育成県民会議館でウェブ開催しました。県内各地の中学校より10, 879点の応募がありました。須賀川市立小塩江中学校の山河ひなたさんが、最優秀賞を受賞しました。

3 青少年関係機関・団体との連携強化

- ◇「第43回福島県青少年健全育成推進大会」
11月19日（金）とうほう・みんなの文化センターで新型コロナウイルス感染防止ため参加者数を限定して開催しました。
- ◇「福島県青少年育成県民会議会長表彰」
青少年健全育成や指導に貢献された個人21名と7団体、市町村民会議2、青少年育成功労者6名を表彰しました。
- ◇「県民会議活動の推進」
・「理事会」、「総会」（5月24日）は書面にて実施。
- ◇「市町村民会議等との連携の強化と広報活動の推進」
・「少年の主張」・「家庭の日」の作品集発刊。
・広報誌「青少年ふくしま」（第70号～第72号）の発行…バックナンバーはHPに掲載
・市町村民会議等への訪問 今年度は新型コロナウイルスまん延防止が発令されたため、見送りとなりました。

4 青少年を取り巻く有害環境対策の推進

- ◇社会環境浄化活動「青少年健全育成県民総ぐるみ運動」の推進（「青少年ふくしま」の頒布、陶芸教室、電話・面接相談等）
- ◇「大人への応援講座」・「ふくしま青少年育成セミナー」等での啓発運動

5 ひきこもり状態にある方への支援

- ◇「福島県ひきこもり相談支援センター」の運営
- ※ 今年度は、LINE（受付専用）及びオンラインによる相談を新に加え、支援を実施しました。

【連絡・問い合わせ先】 福島県青少年育成県民会議
住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5（福島県青少年会館内）
TEL 024-546-0002 FAX 024-546-8312
Mail f-kenminkaigi@fukushima-youth.com
HP アドレス <http://www.fukushima-youth.com/>